

解説

附属中学校 2・3 年英語

指導案タイトル：“The Giving Tree”（Shel Silverstein）を用いた
Reading 授業

授業者：林多恵子 教諭

解説タイトル：

『The Giving Tree』を通して育む人間力— 英語授業における他者理解と対人葛藤解決力の育成

コンピテンシー育成開発研究所
特任講師 Claudia Gherghel

「“The Giving Tree”（Shel Silverstein）を用いた Reading 授業」は、英語の読解力の向上を主たる目的としつつも、単なる言語習得にとどまらず、他者理解や対人関係に関する思考を深める構成となっており、現代の教育に求められる資質・能力の育成に資する内容である。

本授業で扱われている「The Giving Tree」は、児童書でありながらも、無償の愛、自己犠牲、幸福とは何かといった普遍的なテーマをとり上げており、多様な解釈を可能とするテキストである。この物語を読むことにより、生徒は木と少年の関係性を自己や身近な人間関係に照らし合わせながら捉え直すことができ、他者の立場や思いを想像するきっかけとなる。こうした活動は、お茶の水女子大学コンピテンシー10における「他者理解力」の育成につながると考えられる。特に、本教材における木の一方的な献身に対し、少年がその好意に応えることなく自己の欲求を優先させる構図は、生徒にとって倫理的な問いを投げかけ、他者の立場に立って思考する力を促進する。

さらに、教材は他者理解だけでなく、「対人葛藤解決力」の育成にも適した内容である。対人葛藤解決力とは、他者との間に生じる意見の対立や感情の衝突を、建設的かつ協調的に解決していく能力を指すが、本教材ではまさに「対話の欠如」が大きな主題の一つとなっている。木は一方的に与える存在であり、少年は一方的に求める存在である。授業ではこの非対称的な関係を題材に、生徒が自らの人間関係を省察する。文学作品を通じた社会性の育成にもつながる実践であるといえる。

授業の構成は、語彙と表現の導入から始まり、ストーリーテリングを通じた読解活動、リテリングによる内容理解の深化、そして作品から得られた教訓の共有といった流れで展開される。物語を読み終えた後に生徒自身が「この作品から得た最も大切な教訓」について記述し、それをペアやグループで共有する。この一連の流れは、他者と自分の価値観の違いや共通点に気づく対話的な学びを促進しており、能動的かつ協働的な学習態度の形成にも寄与している。また、振り返りを日本語で行うことを許容している点において、生徒の思考の深さを優先した柔軟な運用が見られ、言語表現に不安のある学習者にとっても安心して内省を深めることができる配慮がなされている。英語教育の中でこうした汎用的能力を育成することは、言語運用能力と人間力の双方を高める実践として、今後の授業設計においても重要な視座となるだろう。